

第二十四卷

研究論集

国文・家政学科篇

前 卷 目 次

第二十三卷

「自然法爾」消息の意味するもの ― 親鸞における信の境位と歴史とのかかわり ―	中西 智海	1
芥川竜之介「西方の人」注解(五)	吉田 孝次郎 中野 恵海	13
平家物語と修羅能について(三)	三谷 幸子	31
健康法考 現学 ― にんにくから紅茶きのこまで ―	渡辺 正 坂下 キク子	74
電気用品の法的規制 ― 推移と現状について ―	木下 邦夫	58
国文学科行事記録		43

国文学科行事記録

。文学遺跡巡り

十月二十一日(木)、宇治を訪ねる。晴天。平等院を見学し、浮島付近で昼食。午後、宇治・宇治上神社から宇治十帖の古跡(蜻蛉石・浮舟碑など)を訪ね、午後五時頃に帰阪。

。芸能鑑賞

十二月三日(金)午後、大槻能楽堂で、能楽「安達原」を鑑賞。また、仕舞「遊行柳」「殺生石」、狂言「寝音曲」も演ぜられ、午後四時頃終了。